

行事予定

2020(令和2)年12月～2021(令和3)年4月

【特別展／企画展】

2020年11月28日(土)～2021年1月8日(金)
2020年度博物館実習成果展
「聖夜をかけるサンタさん クリスマスの歴史をたどる旅」
[場所] 西南学院大学博物館1階常設展示室

2020年12月23日(水)～2021年2月27日(土)
2020年度特別展
「地図に描く一伝えられた『日本』」
[場所] 西南学院大学博物館1階常設展示室・特別展示室
2階講堂

2021年4月17日(土)～7月31日(土)
2021年度企画展 I
「ユダヤカ・コレクション ユダヤ教の祝祭」
[場所] 西南学院大学博物館1階特別展示室

【休館】

毎週日曜日

2020年12月19日(土)～12月22日(火)、12月25日(金)
2020年12月28日(月)～2021年1月5日(火)
2021年3月1日(月)～2日(火)
2021年4月15日(木)～16日(金)

新型コロナウイルスの影響により、行事予定は日程、内容等が変更になる場合がございます。予めご了承ください。

編集後記

早くも年末がやってきました。今年は新型コロナウイルスの対応に追われた一年でしたが、今まで慣例的に継続してきた博物館活動を見直す良い機会であったとも感じています。新しい教育普及のかたちを模索しつつ、より良い博物館を作れるよう、来年も頑張りたいと思います。

学芸員 下園 知弥

西南学院大学博物館

〒814-8511 福岡市早良区西新3丁目13番1号
TEL.092-823-4785 FAX.092-823-4786 / 博物館事務室
URL <http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/>

●開館時間のご案内

開館時間 / 10:00～18:00 (入館は17:30まで)
休館日 / 毎週日曜日、夏季休暇[8/10～8/16]、キリスト降誕祭[12/25]、
年末・年始[12/28～1/5]、そのほか臨時休館あり

入館料 / 無料

[seinamuseum](https://www.facebook.com/seinamuseum) [@seinan_museum](https://twitter.com/seinan_museum) [@seinan_museum](https://www.instagram.com/seinan_museum)

来館者掲示板

【来館者の言葉】

どの作品もちょっと“ふっど”体の力が抜けるような小さなしかけ絵本を読んでいる気分になりました。繊細な筆遣いにも感動しました。
(2020年10月)

現代の環境問題や紛争、戦争、飢餓なのか原因はわかりませんが、この作品からは強いメッセージを受け取ることができました。私たちの生活とリンクしている部分もあるのではないかと思います
(2020年10月)

<Burning tree> についてのコメント

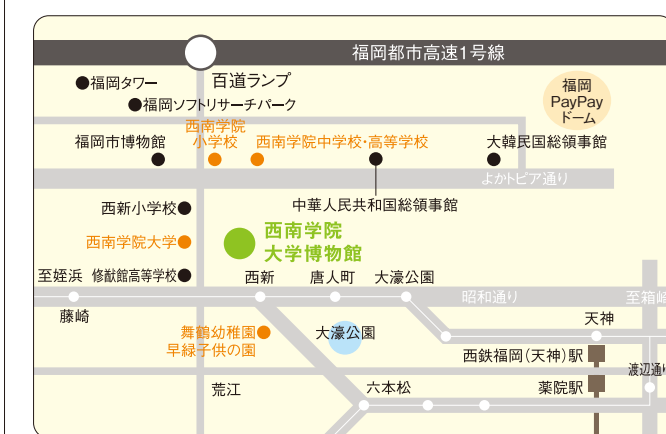
中高通ったチャペルで先生の絵を観るといのは何とも嬉しい経験になりました。
(2020年11月)



10月から、今年の春に開催を予定しておりました研究室訪問シリーズIII「黒木重雄—絵を描くという生き方—」が始まりました。感染症対策を講じながら、皆様に安心して博物館を楽しんでいただけるよう努めてまいります。

学芸調査員 勝野みずほ

アクセスマップ ACCESS MAP



- 福岡空港 → 西新駅下車...約17分
- 博多駅 → 西新駅下車...約12分
- 天神 → 西新駅下車...約8分
- *地下鉄西新駅(③番出口)から徒歩5分
- 博多駅バスセンター → 修猷館前...約35分
- 天神 → 修猷館前...約20分
- *修猷館前バス停から徒歩5分
- 福岡空港(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学...約25分
- 博多駅(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学...約20分
- 天神(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学...約15分

SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM

News

西南学院大学博物館ニュース

Volume **41** 2020.12

◎西南学院大学

所蔵品紹介 特集

【日本キリスト教史】

出島蘭館図巻

Picture of the Dutch Trading House in Dejima
江戸時代中期 / 作者不詳 / 紙本着色、卷子装
本紙:縦35.2×横399.5cm

鎖国政策がとられた江戸時代、外国船の来航は長崎に限定されていました。出島はもともとポルトガル人のために造営された施設でしたが、1639(寛永16)年にポルトガル船の来航が禁止されて以降、1641(寛永18)年から1859(安政6)年までの200年以上にわたってオランダ東インド会社との貿易が行われています。日本人の出島への出入りは制限されていたため、「出島」や「オランダ人」は異国の象徴として庶民の関心を引き、しばしば絵画のモチーフとして扱われました。

本資料は江戸時代中期の長崎派の画家・渡辺秀石の作といわれる「長崎唐蘭館図巻」(神戸市立博物館蔵)と構図や登場人物等がほぼ同じものです。秀石は「唐経目利」という絵画の鑑定を行う重要な職に初めて任命された人物で、1699(元禄12)年に長崎を訪れた幕府の勘定奉行・萩原重秀の注文を受け、唐蘭館図*を作成しました。この原画は確認されておらず、また、秀石は作品に署名や落款をほとんど残していませんが、神戸市立博物館や当館の蘭館図は原画の系譜を引くものであると推測されています。

絵図の中には、オランダ人たちの出島での生活の様子が描かれています。実際に出島に滞在していたオランダ人は15人程度だったのですが、日常のさまざまな場面を描いているため、絵図中には25人ものオランダ人が登場しています。彼らはピリヤードをしたり、ワイングラスを片手にほろ酔い気分で談笑したり、パイプをくゆらせたりと、思い思いに出島での生活を楽しんでいるようです。

その他にも、使用人として雇われていた東南アジアの人々が

*唐人屋敷と出島のオランダ商館の図

所蔵品紹介	【日本キリスト教史】出島蘭館図巻
資料でみる西南学院の歴史⑤	学生運動関係資料
博物館通信	「臨時休館特別企画I スタッフのおすすめ図録」ほか
展覧会紹介	聖夜をかけるサンタさん クリスマスの歴史をたどる旅 ほか



(部分拡大図)

19人、オランダ語の通詞や役人と思われる日本人が7人登場していますが、それ以上に目を惹くのは、全体に散りばめられた10種類以上の動物たちです。孔雀やオウムをはじめ、七面鳥など、当時の日本では見ることのできない動物たちが絵図に彩りを添えています。出島では大きな火事が2度発生していますが、1度目の1798(寛政10)年の大火以前の出島を描いたものは少なく、オランダ人の生活や娯楽、日本人との交流、出島に出入りした動物までを知ることができる本資料は、江戸時代中期の出島の文化を考察する上で非常に貴重な資料だといえます。

学芸調査員 迫田 ひなの



SEINAN GAKUIN

資料でみる西南学院の歴史

5

大正デモクラシーの頃より行われてきた学生運動は、1960年の日米安保条約改定を機に再び盛りになりました。時には死者を出すほどの激しい闘争の中、西南学院大学もその熱に吞まれていきます。

西南の学生たちが要求したことは、「学費の値上げ白紙撤回」と「原子力空母エンタープライズの佐世保港寄港阻止」の二つです。当時、全国的に大学の学費値上げが行われており、それに反対する学生たちが各地でデモを行っていました。本学では、一度は学費値上げを撤回したものの、後に撤回が白紙になったことで学生の反感を買うことになります。さらに、当時はベトナム戦争の最中であり、世界的に反戦ムードが漂っていた中で原子力空母が佐世保港へ寄港することとなり、日本が再び戦争へ加担することに危機感を抱いた市民が集まって反対運動を行いました。本学の学生たちの中にもその輪に加わって実際に佐世保まで足を運んだ者もいたようで、後日の集会で闘争について報告が行われています。

写真は1968年1月20日に撮影されたデモのスケジュールです。学生たちは椅子や机でバリケードを作り、授業のストライキを行いました。そしてII-201教室や、前回ご紹介したランキンチャペルなどで決起集会を行い、市内デモに繰り出していました。

こうして全国を巻き込んだ学生運動でしたが、1970年代以降になると暴力的な面が目立つようになり、山岳ベース事件やあさま山荘事件などをきっかけに急速に勢いを失っていきます。

学芸調査員 早田 萌



「『本日のスケジュール』掲示」(1968年1月20日撮影)
所蔵：西南学院史資料センター



「エンタープライズ寄港阻止の看板」(1968年1月撮影)
所蔵：西南学院史資料センター



博物館通信

約4か月の休館期間と再開館後に行われた博物館活動の中からいくつかをご紹介します。

西南学院大学博物館では、新型コロナウイルスによる感染拡大防止の観点から2020年4月4日から8月1日にかけて臨時休館措置を実施しました。博物館の休館中には、教育施設として博物館が担う役割を果たすべく、おうちで楽しめるワークショップやスタッフによるSNSの利用した収蔵品の紹介などの新しい取り組みを行いました。また、館内の展示品入れ替えやスタッフによる見どころ紹介の追加も行いました。

学芸調査員 内野 舞衣

2020年4月19日(日)～2020年5月1日(金)
臨時休館特別企画I
スタッフのおすすめ図録 全12回(Facebook)

2020年5月8日(金)～2020年7月23日(木)
臨時休館特別企画II 壺週逸品 全12回(Facebook)

その他の取り組み(ホームページ)
おうちでワークショップ
『電子版 西南学院大学博物館ニュース』刊行

2020年10月3日(土)～2020年12月18日(金)
研究室訪問シリーズIII「黒木重雄 絵を描くという生き方」を開催中です。



展覧会紹介

開催中

2020年度博物館実習成果展

聖夜をかけるサンタさん クリスマスの歴史をたどる旅

会期/2020年11月28日(土)～2021年1月8日(金)

会場/西南学院大学博物館 1階常設展示室

主催/西南学院大学博物館実習生

クリスマスが今年もやってきます。みなさんはクリスマスについてどのようなイメージを思い浮かべますか? クリスマスと切り離せない存在といえば、もちろんサンタクロースですね。ところで、この「サンタクロース」という存在の源流が3～4世紀に実在した「聖ニコラウス」という聖人であることを知っている人はどれほどいるでしょうか。9世紀頃からギリシアやロシアの東方正教会で重要な聖人の一人として広く崇敬されるようになった聖ニコラウスは、時代の流れとともにその伝説

Merry Christmas!



や奇跡が広く伝播してゆき、大陸を超えていきました。この聖人が聖夜にプレゼントを届けてくれるという文化は、その過程で生まれ、定着したのです。

本展では、クリスマスについて「歴史」と「世界の文化」という二つの視点から紹介するとともに、サンタクロースの歴史についても紹介します。新型コロナウイルスで旅行がしづらい今だからこそ、本展を通じてサンタクロースとクリスマスを新しい視点から見る「旅」を楽しんでいただければ幸いです。



展覧会紹介

次回開催

2020年度西南学院大学博物館特別展

地図に描く—伝えられた「日本」—

会期/2020年12月23日(水)～
2021年2月27日(土)

会場/西南学院大学博物館 1階特別展示室・常設展示室・
2階講堂

主催/西南学院大学博物館

本展覧会では、テレビ・インターネットなどのメディアがない時代には、人々はどうに「日本」を地図に描き、どのように「日本」が伝えられたのかを地図資料をもとに紹介いたします。

今日、世界中を旅する時や知らない土地を歩くと、「地図」が役に立ちます。地図は文字よりも早く誕生したといわれ、時代ごとに人々の世界観や興味関心を強く反映してきました。

第1部では海外に視点を置き、キリスト教が普及した中世、大航海時代以降アジアに目が向けられた17世紀、そしてケンペルやシーボルトらがヨーロッパに「ニッポン」を伝えた19世紀という三つの時代において、地図のなかの「日本」のすがたがどのように変化していったのかを紹介します。第2部では国内に視点を置き、江戸時代を通して発達した日本図・絵図・航海図・



「改正日本輿地路程全図」
天保4(1833)年/日本/長久保赤水/木版、色刷

名所図会を取り上げ、描かれた「日本」のすがたをたどっていきます。

これまで西南学院大学博物館が収集してきた地図資料・絵図資料を一挙公開いたします。初公開の資料もございますので、お楽しみに!